

# Easy fixation effects the prevention of Peterson's hernia and Roux stasis syndrome

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ☒, 建忠 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003058">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003058</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2525 号

Easy fixation effects the prevention of Peterson, s Hernia and Roux stasis syndrome

ピーターセンヘルニア及び Roux 停滞症候群予防のための簡単な固定の効果について

吳 建忠 (ご けんちゅう)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、当科において考案した簡単で効果的に合併症を減らす手術手技について 3 年間の術後経過観察を経ての有効性を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

本邦において腹腔鏡下胃切除術 (LDG) は、ほぼ主流となっているが、再建方法については B-I 再建が出来ない場合、R-Y 再建を選択しなくてはならない。この場合、通常でも時間が 1 時間超伸びてしまうこととさらにピーターセンヘルニアや Roux 停滞症候群を予防するために、様々な工夫を凝らさなくてはならず、複雑で時間も要する。今回我々は、十二指腸断端と Roux 脚を固定するたった 10 分程度の手技により、2 つの合併症 (ピーターセンヘルニア、Roux 停滞症候群) をほぼゼロに出来たことを 2 年間 31 例の症例をレトロスペクティブに解析し証明し報告した (一般的に、前者が腹腔鏡で 2-5%、開腹では 0.3% と、腹腔鏡手術では出血が少ないため多いとされている。また後者は、約 30% にも認める合併症である)。この固定手技により、間隙に小腸が入り込むのを予防でき、また、食物の通過が容易になったため、停滞症候群も改善されたと考える。この報告により、腹腔鏡胃切除術の R-Y 再建をより短時間で簡便なものに変えられることが可能となった。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。